



2011年3月期第1四半期 業績概要

2010年7月29日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一

東証第1部:6754
(<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/>)

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

Copyright© 2010 Anritsu Corporation. All rights reserved

1

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や
競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引
き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 2011年3月期 第1四半期 業績概要
- 2011年3月期 第2四半期累計、通期見通し

当社の事業セグメントの呼称と事業内容

セグメント	サブセグメント	事業内容	担当事業部門 の主な所在国
計測	モバイル市場 (旧:携帯端末分野)	携帯電話端末開発・製造・保守用テスト	日本・英国・ 米国
	ネットワーク・インフラ市場 (旧:NGNおよびインフラ関連分野)	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど	日本・米国・ デンマーク・ イタリア
	エレクトロニクス市場 (旧:汎用分野)	無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど	米国・日本・ 英国
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど	日本
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など	日本、タイ
その他		精密計測、光デバイスなど	日本

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

4

計測事業のサブセグメントの名称を前回の発表時から変更しています。
製品の分類は変更ありません。

サマリー(1)

第1四半期業績(連結)サマリー

(単位:億円)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	168	179	11	6%
売上高	143	168	25	18%
営業利益	△9	9	18	-
経常利益	△11	3	14	-
税引前当期純利益	△9	2	11	-
当期純利益	△18	1	19	-
フリーキャッシュフロー	19	42	23	119%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

5

売上高18%増、第1四半期の営業黒字を達成。

売上高は、LTE開発用計測器の一部で顧客の開発投資が当社想定よりも前倒しで獲得できたことにより、増収となりました。

前倒し案件の獲得により、営業利益、経常利益、当期純利益が改善しています。

フリーキャッシュフローは、利益の改善に加え、売上債権の回収が進みました。

サマリー(2)

営業概況

計測	顧客の設備投資抑制は一部残るものの、総じて堅調に推移 LTE ^{注1)} ビジネスは顧客の前倒し開発投資もあり、堅調に推移 中国移動 TD-SCDMA ^{注2)} 認証試験システム受注 ベライゾン LTE用BTS ^{注3)} マスター採用
情報通信	計画通り 帯域制御装置が金融機関向けを中心に堅調
産業機械	アジアの設備投資が回復傾向であり、全体として計画通り
その他	ブロードバンド化に伴う光デバイスの需要は特需により好調 精密計測は顧客の設備投資抑制により低調

注1) LTE: 次世代携帯電話の通信規格。

注2) TD-SCDMA: 中国が推進する第3世代携帯電話の通信規格。

注3) BTS: 基地局

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

6

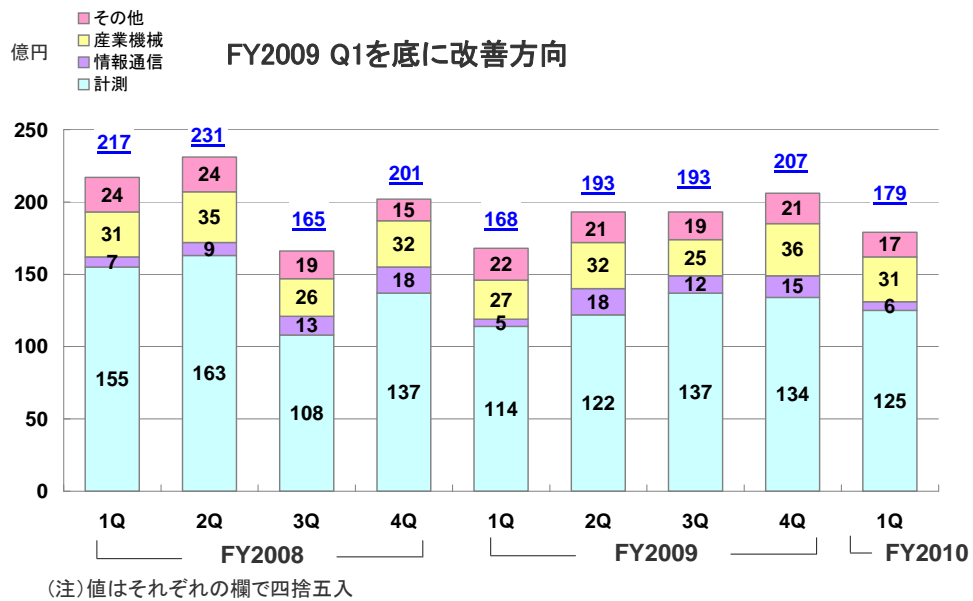
顧客の設備投資抑制は一部で継続。LTEへの開発投資は堅調に推移。

LTE関連の計測需要は各地域で順調に推移していますが、LTE以外の計測需要は投資抑制が一部継続しています。

中国移動は、TD-SCDMAの認証試験システムを6月に受注しましたが、6月末のTD-SCDMA加入者は1,000万人ほどで、当初想定よりも緩やかな進捗です。

米国では、無線インフラ向けの計測需要が堅調に推移しました。

事業別受注推移(連結)



Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

7

前年第1四半期を底に改善方向。

全体としては前年同期比6%増加となりましたが、モバイル関連の設備投資以外は抑制気味の状況が継続しています。

事業別売上高・営業利益(連結)

計測はLTE関連の需要立上りと北米市場の回復により増収、黒字化

(単位:億円)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	100	118	18	18%
	営業利益	△10	7	17	-
情報通信	売上高	3	5	2	99%
	営業利益	△4	△2	2	-
産業機械	売上高	23	26	3	14%
	営業利益	0	0	0	△19%
その他 (含:内部 消去)	売上高	18	19	1	8%
	営業利益	6	5	△1	△18%
合計	売上高	143	168	25	18%
	営業利益	△9	9	18	-

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

8

計測事業は営業黒字、その他の事業は前年実績並み。

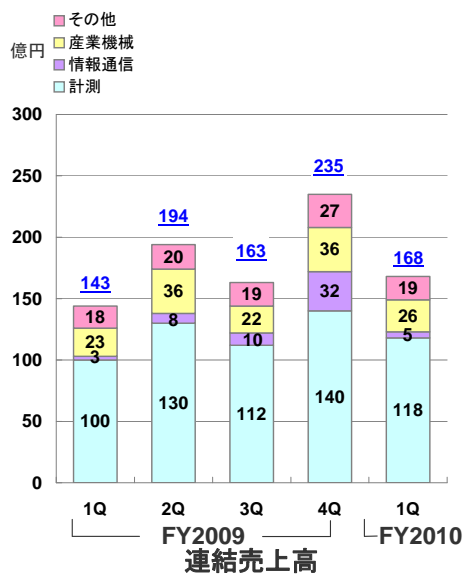
計測事業はLTE開発用計測器の一部前倒し受注や北米市場の回復により増収、営業黒字となりました。

情報通信事業は、通信ネットワークの負荷を制御する帯域制御装置が堅調であり、増収および赤字幅の圧縮となりました。

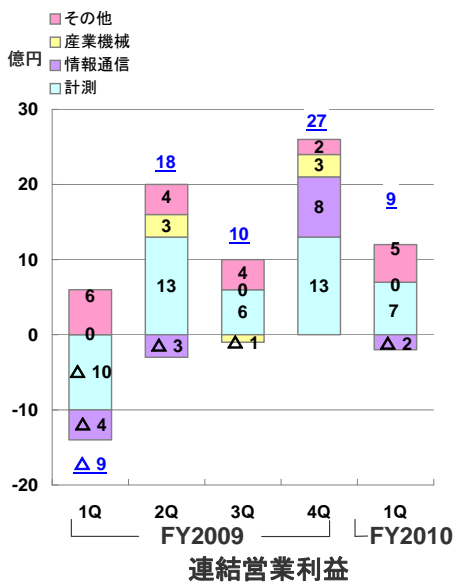
産業機械は、アジアを中心に回復傾向となっており、計画通りの進捗です。

その他の事業では、光デバイスが映像配信用途で需要が増大しましたが、精密計測が低調であり、減益となりました。

事業別売上高・営業損益推移(連結)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

9

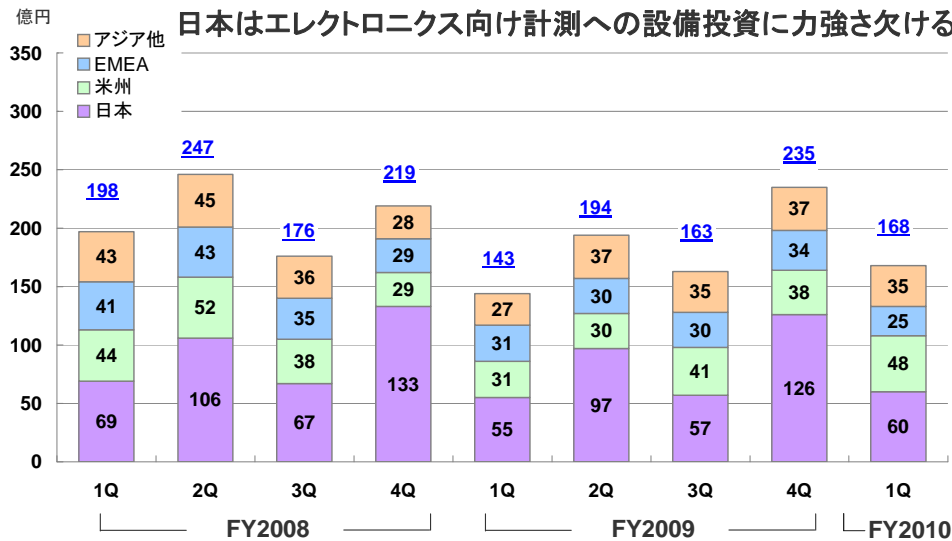
四半期毎に徐々に改善方向。

固定費削減策の解除による費用増加はあるものの、前年第1四半期を底として、収益は着実に改善しています。

計測事業は4四半期連続して営業黒字となりました。

地域別売上高推移(連結)

米州は無線インフラの整備、建設保守用計測を中心に堅調
日本はエレクトロニクス向け計測への設備投資に力強さ欠ける



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

10

米州は回復傾向、日本は設備投資に力強さ欠ける。

米州市場は、政府系の無線インフラの需要増大などにより、リーマンショック前の水準まで回復しています。

日本市場は、リーマンショック以降、汎用計測器を中心に厳しい状況が継続しています。

EMEA市場は、金融の信用不安などにより、設備投資の抑制が継続しています。

アジア他の市場は、通信インフラ整備や携帯端末の開発・製造用計測需要などにより、堅調に推移しています。

営業外・特別損益概要(連結)

(単位:百万円)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績
営業利益	△ 867	914
金融収支	△ 92	△ 144
為替差損益	△ 139	△ 514
その他	30	△ 4
営業外損益計	△ 201	△ 661
経常利益	△ 1,068	253
投資有価証券売却益	140	-
資産除去債務会計基準 の適用に伴う影響額	-	△ 68
投資有価証券評価損	△ 1	△ 0
特別損益計	139	△ 68
税引前利益	△ 929	184

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

11

為替差損の影響により営業外損失が増加

対ドル、対ユーロで為替差損が発生しています。

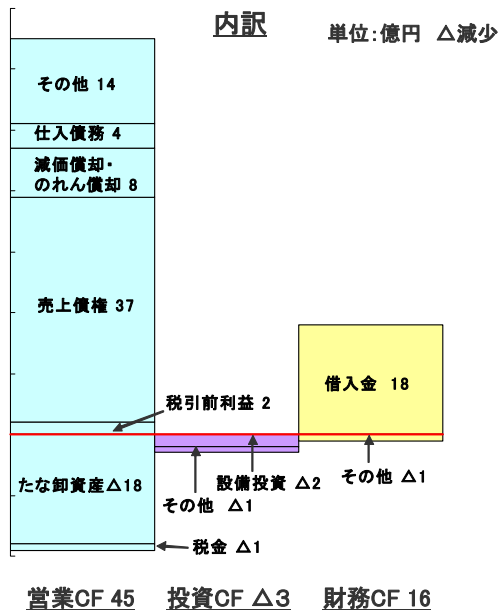
想定レートは、1ドル90円、1ユーロ125円としていましたが、今回1ユーロを110円に見直しました。

キャッシュフロー概要(連結)

第1四半期
 ①営業CF: 45億円
 ②投資CF: △3億円
 ③財務CF: 16億円

フリーキャッシュフロー
 (①+②): 42億円

現金同等物期末残高
 319億円



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

12

着実にキャッシュフローを創出

営業キャッシュフローは、利益の改善と売上債権の回収が進んだことなどにより、45億円(前年同期比26億円増)となりました。

2011年3月期第2四半期(累計)、通期の見通し(連結)

配当予定:年間 4円
(うち中間配当 2円)

上期業績は上方修正、通期見通しは変更なし

(単位:億円)

		FY2010			FY2009	
		前回予想 H1	今回予想 H1	通期予想	H1実績	通期実績
売上高		350	350	770	338	735
営業利益		△ 2	8	38	9	46
経常利益		△ 8	0	25	1	36
当期純利益		△ 13	△ 3	15	△ 1	4
計測	売上高		240	515	230	483
	営業利益		7	23	3	23
情報通信	売上高		10	55	11	53
	営業利益		△ 6	0	△ 7	1
産業機械	売上高		63	125	58	116
	営業利益		3	6	3	6
その他	売上高		37	75	38	83
	営業利益		4	9	10	16

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=90円→変更なし
1ユーロ=125円→110円

Discover What's Possible™

Financial Results FY2010Q1

Anritsu

13

上期業績を上方修正、通期見通しは変更なし。

上期業績については、LTE開発用計測器を当初想定よりも前倒しで獲得した案件があり、利益が改善することから、上方修正します。

通期見通しは、顧客の設備投資動向は年初見込み通り推移すると予測しているため、変更ありません。

想定為替レートは、1ドル90円、1ユーロ110円に変更しています。

Anritsu

Discover What's Possible™